

概 要
<p>第 27 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：文化芸術センター（たからば）・手塚治虫記念館周辺のにぎわいづくり</p>
<p>日時：令和 8 年 5 月 21 日（木） 午後 2 時～午後 3 時 45 分 場所：東公民館 ホール 参加者：17 名 出席者：森市長 都市安全部 江崎部長 他 産業文化部 鈴木部長 他</p>
<p>《市長のテーマ説明》</p> <p>1. 集会の趣旨と経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝塚市を代表する文化・観光エリア（たからば、手塚治虫記念館、大劇場周辺など）を今後どのように盛り上げていくか、市民から具体的な提案や意見を募りたい。 ・2028 年の手塚治虫氏生誕 100 年を見据えた賑わいづくり。 ・今回の東公民館での開催は 3 回目（1 回目：西公民館、2 回目：西谷会館）。次回（最終回）は宝塚文化創造館で現地ツアーを交えて開催する。 <p>2. 対象エリア・施設の現状と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術センター（たからば）は宝塚ファミリーランドおよびガーデンフィールズの跡地に立地し、市民の思い出が深い場所。メインギャラリー、ライブラリー、おおやね広場、ガーデンハウス（現状は休憩所だが有効活用を模索中）などで構成されている。 ・手塚治虫記念館は 1994 年開館、市立直営施設。常設展示のほか、アニメ体験やライブラリーを併設し、アニメの聖地としても認知されている。 ・宝塚文化創造館は宝塚音楽学校の旧校舎を寄贈を受け整備した施設。イベント用ホールやバレエ・日舞の専用スペース、歴史を伝えるすみれミュージアムを併設している。 ・このエリアは、明治 44 年の宝塚新温泉開業以来、宝塚ファミリーランド、ガーデンフィールズなど、時代ごとにテーマを変えながら阪神間・京阪神から多くの人が集まってきた大切な場所。 <p>3. 宝塚市立文化芸術センター及び宝塚文化芸術センター庭園（たからば）に係る管理運営の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力の継承と創造：宝塚の文化芸術の魅力を引き継ぎ、市民が発信・創造する拠点とする。 ・想像力の育成：子どもたちを中心に、定期的なワークショップを開催。 ・コミュニティの形成：ライブラリーなどで人々が自然に集う空間の機能。 ・地域の活性化：西谷の野菜販売や各種イベントを通じて地域を活性化。 ・地域課題の解決への貢献：国際交流、福祉、産業などに関するイベントの開催。 <p>4. 今後の展望と市民への問いかけ（話し合いのテーマ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手塚治虫氏生誕 100 年に向け、アニメや漫画を核とした賑わいづくりを進めるが、一

過性で終わらない取り組みを目指す。

- ・市民には利用されているが、市外からの集客にはまだ伸びしろがある。
- ・単に人が集まるショッピングモールのような場所ではなく、宝塚独自の価値やテーマを対話から見つけ出したい。
- ・花のみちから周辺エリアを含め、オンリーワンの賑わいが絶えない場所にプロデュースするためのアイデアを出していただきたい。

《対話》

1 参加者【花と緑の魅力向上と地域連携について】

- ・当エリアの魅力は花と緑であり、花のみちを歩くたびにワクワクする。
- ・地元の大学や小学校が連携し、宝交早生苺の栽培やコンポスト（堆肥）作りを行い、その土を花のみちに活用している取り組みは非常に素晴らしい。
- ・このような活動を他の小中学校にも広げることで、子どもたちが関わった道として愛着や誇りを持てるようになってほしい。

→市長

- ・花や緑は宝塚の大切な魅力であり、コンポストの土を近隣の花壇に活用する取り組みは既に報道発表も行っている。
- ・子どもたちをはじめとする地域住民が自分たちが作ったというオーナーシップ（当事者意識）を持てる環境づくりは重要である。
- ・近年、花のみち周辺はコスプレイヤーからも支持されており、花と緑も大切な要素であると認識している。

2 参加者【グローバルな観光誘致と市全体の魅力向上について】

- ・賑わいとは、市外から人が増えてお金が落ちること（経済効果）と定義できる。
- ・宝塚市には歌劇、山、ゴルフ、武庫川、温泉など多様な観光資源が点在しているが、全体としてどう引っ張っていくかの方向性が難しい。
- ・世界的に有名な手塚治虫氏の知名度を活かし、海外からのインバウンド（外国人観光客）を積極的に呼び込んで市にお金が入る仕組みに力を入れるべき。
- ・市の面積の6割を占める西谷地区については、南部地域と山で隔てられて別個のようになっている。夢のような話だが、川西から西谷・三田を経て神戸電鉄（有馬温泉方面）へ繋がる鉄道が通れば、非常に画期的な展開になる。

→市長

- ・西谷地区、南部のたからばや寺社仏閣、緑、そして武庫川河川敷から大劇場を望む景観など、市内には市民が誇れる素敵な魅力が数多く点在している。
- ・漫画の神様である手塚治虫氏をきっかけに、世界の人々に宝塚を発見してもらい、インバウンドを誘致して経済効果に繋げる視点は重要であるが、観光客が増えすぎて住民の日常生活が乱されるオーバーツーリズム（観光公害）には注意が必要。宝塚の静かで美しい暮らしを守りつつ、魅力を発信していくバランスを意識したい。
- ・かつて阪急電鉄が有馬温泉までの延伸を計画していた歴史もあり、鉄道網の夢には共感するが、現実的にはなかなか難しい面がある。

3 参加者【市長の健康管理と市民の健康づくり（宝塚アトム体操の活用）について】

・市長の健康管理について、広報誌を見ると市長は非常に多くの議案を提出し、土日市民との対話に奔走している。若くても働きすぎであり、倒れては困るので、周囲の職員がしっかりと市長を止め、休ませるべきである。

・自身が入院した際、病院が寝たきりの高齢者で溢れている現状を見て、日本の健康管理が後手に回っていると実感した。

・プロの指導者（元プロスポーツ選手や大阪体育大学など）の協力を仰ぎ、公園や公民館等でストレッチやラジオ体操を行うなど、柔軟性を高めて病気を予防する仕組みを市の主導で進めてほしい。

➡宝塚アトム体操に詳しい参加者

・宝塚アトム体操は、子どもが幼稚園の時に手塚治虫氏やアトムに親しむ素晴らしいきっかけとなった。

・健康増進という側面に加え、宝塚の文化的な発信ができる可能性に満ちたコンテンツであるため、広報や活用方法について市長にも提案を行っている。

➡市長

・自身の健康について、温かい気遣いに感謝する。議案はチームで考えているため心配ないが、休みが少ないのは事実なので、今後はしっかりと休みを取りつつ健康に留意したい。

・予防医療について、病気予防（健康投資）は非常に重要である。市では現在もフレイル予防や宝塚いきいき百歳体操に注力しており、武庫川女子大学の先生から指導を受ける人気講座なども実施している。

・宝塚市には、子どもたちには広く知られている宝塚アトム体操がある。これを大人の世代にも広げて健康づくりと文化発信に活かしていくことは、面白いアイデアとして検討していきたい。

4 参加者【広域的な視点での経済活性化と市民の知恵の活用について】

・宝塚市民のためだけの視点ではなく、全国や世界のお金持ちを呼び込めるようなスケールで開発を進めるべき。富裕層が市内で消費する金額の桁は大きく、それにより高い経済効果（プラスの連鎖）が生まれる。

・観光ホテル等で使い終わった温泉水を下水に流すのは無駄である。海底温泉を引いて足湯を作っている芦屋市の事例などを参考に、宝塚市でも足湯を随所に設置してはどうか。市内の地質や山の配置から見ても、深く掘れば中筋地区など他にも温泉が出るはず。

・市内の優秀なものづくり企業を宝塚商工会議所主導で合体させ、世界に誇る製品を作るべき。現在の企業のトップは手塚治虫氏のアニメからアイデアを得ている人も多く、その関心を惹きつければ世界から人が集まる。

・自身のように戦争を体験した80代以上の市民を集め、体験談を発信するブログや広報企画を市で作ってほしい。痛みを知る世代のリアルな声を残すことが、これからの道徳・平和教育のスタートラインになる。

➡市長

・宝塚という知名度は全国区であるため、市内だけに閉じず、日本全国・世界を見据えたスケール感で物事を考えていく視点は非常に大切である。

・市内の世界的企業は企業間取引（BtoB）が中心であるため市民への認知度は高くない

が、大変優秀なものづくり企業が集まっているのは市の強みである。企業のリーダーたちに、今後どのように協力し合えるかヒントにしたい。

・高齢の市民から戦争体験を集めるという提案は非常に良いアイデアであり、大切な取り組みとして参考にしたい。

5 参加者【インバウンド対応とアクセス環境の整備について】

・水木しげるロードのような事例を参考に、JR 宝塚駅・阪急宝塚駅・阪急宝塚南口駅から手塚治虫記念館までの道中にファンが喜ぶ仕掛けを施し、歩きたくなるルートを作ってはどうか。

・手塚治虫氏の作品のファンが多いアメリカやフランス、近隣のアジア諸国に向けて、現地語での検索にヒットし、関空からのルート等もわかりやすく解説した特設ホームページを用意すべき。

・子連れのファミリー層などが市外・県外から車で訪れる際、周辺の駐車スペースが不足している。近隣の商業施設との共同利用の交渉や、大型駐車場の確保など、車でのアクセス環境（インフラ）を整備すればさらなる集客に繋がる。

→市長

・現在、手塚治虫記念館を訪れる外国人は台湾・香港・韓国などアジア圏が多いが、手塚治虫氏の作品は南欧や北米でも非常に人気がある。関西国際空港からの案内も含め、言語対応や情報発信の強化は重要な視点である。

・周辺の駐車場確保が難しい現状は市としても苦しいところであり、アクセス向上のための重要な課題として捉えている。まずはエリアの魅力を高めて人を呼び込むことが先決としつつも、駐車場のあり方については今後検討していきたい。

6 参加者【子どもが主役となる多世代の居場所づくりと自然体験の活用について】

・川崎市の子ども夢パークのように、豊かな自然の中で子どもたちが活動を自由に選択でき、不登校の児童や親子、地域のボランティアなど誰もが自然体で過ごせる多世代の居場所として、たからばは非常に適している。

・土、水、そして火（焚き火など）といった自然の要素を使った体験イベント（プレーパークなど）を行うことで、子どもの学びや楽しさを生み出せる。

・子どもが惹かれて集まることで親世代も足を運び、それを支える地域住民が関わることで、まずは宝塚市民が日常的に活用し集まれる場へと広げてほしい。

→市長

・川崎市には自身も訪れたことがあり、自律的に助け合う素晴らしい仕組みだと認識している。たからばで実施するかどうかも含め、子どもが行きたい、楽しめる場所というコンセプトを大切な要素として前向きに検討していきたい。

・今の時代だからこそ、子どもの遊びにとって何が大切なのか、自然体験などの仕掛けを踏まえて考え直す視点は非常に重要である。

・過去の西谷会館での対話でも子どもが行きたいと言えば、家族や祖父母も何度も足を運ぶという意見があり、かつての宝塚ファミリーランドの成功の本質もそこにあると共感している。

7 参加者【駐車インフラの課題と手塚ボーイを育むブランドコンセプトについて】

・宝塚市は山手の住宅街が多く、ファミリー層の移動手段は車がメイン。文化芸術センターで魅力的なイベントがあっても、専用の広い青空駐車場がないため商業施設で買い物をしなければというノイズが生じ、結局神戸や梅田など他都市へ流れてしまう。

・中央図書館やナチュラルスパなども駐車場が狭い・料金が高等などの理由で二の足を踏んでしまう。ソリオの地下駐車場は古く、車高や車幅のある大型車では利用しにくい。子どもに温泉や街の魅力を体感させるためにも、周辺施設との連携（チケット提示による割引など）を含めた駐車環境の整備を改めて強く要望する。

・手塚治虫氏を漫画の神様や東京・トキワ荘時代の遠い存在として描くのは他自治体でもできる。宝塚市が描くべきは、5歳から24歳までを過ごした少年期・手塚ボーイのストーリーである。

・手塚治虫氏がなぜ豊かな観察眼を養えたのか、西谷の豊かな自然（昆虫や小さな生き物の生態）と絡めたフィールドの活用などがポイントになる。手塚治虫氏が生まれた街として消費するのではなく、次の手塚ボーイ（創造的な子どもたち）を育てる街というコンセプトにすれば、文化芸術センターや学校とも連動しやすくなる。

→市長

・駐車場問題は非常に耳が痛い課題である。駅近くの狭いエリアで土地を確保することや提携・整備には多額の費用がかかるため一筋縄ではいかないが、車社会である市民の切実なインフラ課題としてしっかりと認識している。

・手塚治虫氏が宝塚市で過ごした多感な時期の体験が、その後の作品の礎になったというストーリーは極めて大切な視点である。昆虫採集のエピソードなども含め、手塚治虫氏の切り口（魅力）は非常に多様であるため、今後も深く研究していきたい。

・タイムリーなことに、NHKで宝塚在住時の体験を基にしたドラマ『手塚治虫の戦争』の制作が予定されている。現在、市では手塚治虫氏の生涯に焦点を当てたドラマの誘致運動や、100万筆を目指した署名活動を行っており、これらはまさに次の手塚ボーイが生まれる街づくりにも繋がっていくため、ぜひ市民の皆さんにも協力をお願いしたい。

8 参加者【武庫川河川敷の有効活用と食農教育による健康なまちづくりについて】

・駅から徒歩圏内にある武庫川の河川敷を上手に活用し、川の水を使った花壇や農園（市民農園）を作ってほしい。家族連れが気軽に土と触れ合える場になれば魅力的なスポットになる。

・千年以上の歴史を持つ園芸の街、美味しい学校給食、治安の良さを象徴するオープンガーデンの取り組みなど、宝塚の環境を非常に気に入っている。自身の子どもが有機農業塾にお世話になったのを機に、地域の協力のもと、一昨日も長尾南小学校の3年生120名と環境学習として苗植えを行い、学校や地域から大変喜ばれた。

・家庭菜園や野菜作りを通じて、食べる大切さや農家への感謝の心を育むことができる。自然や土に触れて心身ともに健康になれば、病院へ行く回数も減り医者泣かせの地域になる。市にはぜひ、お花や野菜を作れる場所をさらに提供してほしい。

→市長

・文化芸術センター（たからば）はこれまで見せる（鑑賞する）庭園としての活用が中心だったため、今後どう活用できるか考えていきたい。武庫川河川敷での農園設置は国など

の法的な制約が多く簡単ではないが、一つのアイデアとしてどのようなアプローチが可能か検討してみたい。

・提案にまったく同感である。頭で持続可能性などを難しく考えるよりも、土に触れ、植物（観賞用・食用問わず）を育てることは、子どもたちの生きる力の育成や、市民の精神的な健康維持において非常に大切な要素である。宝塚の大きな魅力の一つとして、市民農園のような仕組みをもっと増やしたい。

9 参加者【市民主導の自主的イベント・活動への場所の提供と支援について】

・マルシェのような商業的イベントだけでなく、市民の生活や知恵に根ざした活動（焚き火、自然探検、手塚治虫記念館周辺のウォーキング、河川敷の花探しなど）を、文化芸術センターをはじめとする市内の施設や空間をもっと活用して開催したい。

・市民発の小さくても多様なグループ活動を実際に形にし、人を動かしていくために、一般市民がどのように場所を借り、活用していけるのか、その仕組みやハードルを知りたい。

➡市長

・火災リスクの観点から焚き火はかなり厳しい制約があるが、それ以外の探検やウォーキング等の活動に関してはハードルは高くない。河川敷や公園であれば、焚き火をしない前提なら申請なしで自由に集まって活動することも可能。

・地域に役立つ有意義な活動であれば、市として費用面などをバックアップする支援制度もあるため、市の担当窓口や宝塚市文化財団に相談してほしい。

➡担当部

・焚き火や泥遊びができるプレイパークは子どもの情操教育に非常に有効であり、公園の所管部署としてもぜひ実施してほしいと考えている。ただし、煙や安全性の面で近隣住民や自治会の同意が必要不可欠となるため、まずは地元の身近な公園から地域と話し合ってから進めるのが望ましい。

・現在、市と地域の方々とパークマネジメント計画に基づく公園区計画を策定中である。これは地域住民が自分たちのしたいこと・魅力的な公園づくりを提案・決定し、より自由に使用できるようにする仕組みであるため、ぜひこの制度を活用して理想のイベントを実現させてほしい。

10 参加者【文化芸術の定義・聖地化のあり方と指定管理の意思決定プロセスについて】

・当エリアの役割にある文化芸術の創造は幅が広すぎて曖昧に見える。

・アニメ・漫画の聖地というが、中高生が触れる作品は膨大で草の根から自然発生するものが多いため、行政主導の誘致は難しい（高知県のような独自の土壌やコンテスト等の歴史がないと厳しい）。

・文化芸術センターは作品を保存する美術館スペックというより、動きのあるイベントが多い。それゆえ、文化を社会のニーズと接続するアートマネジメントの発想が必要だが、現在の指定管理者はまだその視点が弱いのではないか。

・宝塚の市民は日中外で働き、夜帰ってくる人が多い。しかし文化芸術センターは18時で閉館するため、仕事帰りにふらっと寄れるような夜間の特例開館やイベントを検討すれば、新たな客層や賑わいが生まれる。

・市民からこんなことをしたいというニーズが出た際、指定管理者である財団から市へどのように話が上がり、どのようなプロセスで物事が変わっていくのか（意思決定の仕組み）を知りたい。

→市長

・よくあるアニメや漫画の聖地づくりの手法をそのまま適応するのは難しいと思っている。核になるのは手塚治虫氏だが、今の時代に作品をそのまま読ませるより、彼の生涯（5歳～24歳の宝塚時代）や文学的視点・先進性に焦点を当てるべき。また、かつて映画の製作所があった歴史を活かし映像エンターテインメントを切り口にするなど、クリアな決め打ちをせず、専門家や市民の意見を聞きながら絞り込みたい。

・営業時間の延長や駐車場の確保は人件費や予算に直結するため、簡単にやるとは言えない。しかし、こうした対話の中で夜間開館していないことや、駐車場がないことが活動の明確なボトルネック（障害）になっていると見えてくれば、優先的な解決に向けて検討の遡上に載せることができる。

・指定管理者制度はある程度の柔軟性を持っているため、現行の契約枠内・予算内で対応できるニーズであれば財団側で柔軟に対応可能である。ただし、それを大きく飛び越えるような変化や条件の変更が必要な場合は、市としての意思決定が必要になる。その場合、現在の契約期間（年限）はお互いの約束として尊重しつつ、次の指定管理者の更新期にどう条件を見直していくかという長期的なプロセスで考えていくことになる。

11 参加者【影響を受けた作家との連携・市全体を巻き込んだ聖地化のアイデアについて】

・若い世代にとって手塚治虫氏の作品は馴染みが薄くなりつつあるが、現代の人気漫画家の多くは手塚治虫氏の遺志や影響を受けている。手塚治虫氏を起点として、彼に影響を受けた現代作家たちの作品展などを企画すれば、幅広いアニメ・漫画ファンを呼び込める。

・手塚治虫氏の作品にちなみ、寺社仏閣が多い宝塚市の特性を活かしたスタンプラリーを提案する。鳥取県の事例のように、作品にちなんだ商品の販売や登場店舗とのコラボなど、点在する魅力を繋いで市全体で取り組めないか。

・先ほど話題に上った火を使うイベントに関して、光明町の第四公園などには防災用のかまどベンチが設置されており、実際にレトルトカレーを食べるイベント実績もある。こうした既存のインフラを活用すれば、公園での火の使用も十分に可能である。

→市長

・手塚治虫氏の作品に影響を受けた漫画家たちとの繋がりを活かすという視点はその通りである。手塚治虫記念館の企画展などは手塚プロダクションと相談しながら決めており、今の子どもたちが親しんでいる現代の漫画を切り口に足を運んでもらう仕掛けはぜひ進めていきたい。

・手塚治虫氏の作品とお寺を絡めるようなアイデアは非常に素敵である。現在、市では具体的な方向性を絞り込むための協議会を立ち上げており、自身のイメージだけで決めるのではなく、今回出たような様々なアイデアも協議会の中で揉みながら、宝塚市らしい聖地化のあり方を進めていきたい。

・かまどベンチをはじめ、公園はぜひ市民に有効活用していただきたいと考えているの

で、引き続きおもしろいアイデアを実践して行ってほしい。

12 参加者【手塚治虫氏生誕 100 年に向けたロードマップと持続可能なアフター戦略について】

・2028 年の手塚治虫氏生誕 100 年に向けた聖地化にあたり、行政として参考にしてしている自治体や現時点でのロードマップ（具体的な動き）を教えてほしい。

・市制 70 周年記念や過去のギネス記録の取り組みなども含め、これまでの行政の施策はその後が続かない（持続性がない）印象を受ける。せっかく大きな花火を打ち上げても、市民の日常的な動線にアピールできておらず、シビックプライド（市民の誇り）に繋がっていない。

・70 周年の際に花のみち（南部）で西谷（北部）のダリアを展示した試みは、地域が繋がった象徴的な事例だったが、結局一回きりでまた各コンテンツが分断されてしまった。手塚治虫氏生誕 100 周年を機に、こうした地域連携を現場レベルで持続的な取り組みとして定着させてほしい。

➡担当部

・2026 年 4 月 25 日に、宝塚市だけでなく、近隣市、大阪観光局、大阪大学、地元団体などが参画する広域的な協議会を立ち上げた。具体的な事業内容は、まさに今からこのメンバーで決定していく段階である。

・手塚治虫氏の生涯や作品のドラマ化を各放送局に働きかけるため、100 万筆を目標とした署名活動（オンラインおよび市内公共施設でのチラシ配布）を開始した。

➡市長

・特定の自治体を模倣するのではなく、すでに手塚治虫記念館があり育った街としての土壌がある宝塚市ならではのオリジナルな聖地化を目指す。他都市の事例（水木しげるロードなど）の情報は協議会メンバーとも共有しつつ、宝塚市としての解釈を深めていく。

・一過性のイベントにせず持続的に人が来る・自律的に回る工夫をすることこそが今回の最大のテーマであり、指摘は正論である。予算面（お金）の制約という現実的な課題はあるが、長く続いていく仕組みにするために、まさに今回のような市民からの知恵やアイデアが必要であるため、今後も心して進めていきたい。

13 参加者【二次元コード技術の普及と今後の仕組みへの懸念について】

・現在、多くの人が日常的に使用している二次元コードについて、その根本的な仕組みやシステムが将来的に変わってしまったり、廃れてしまったりする可能性（リスク）はないのか。

➡市長

・二次元コードは日本発の技術（発明）であり、その仕組みはすでに日本全国、そして全世界で完全に確立されている。

・類似のシステムは存在するものの、現在の二次元コードのシステムそのものがしばらくの間に廃れる心配はないと考えているため、今後も安心して使用して問題ない。